

ある病院では、患者さんの疑問や質問に対して真摯に対応する為に「患者様相談室」という窓口をつくったところ大変評判がよく経営が改善されたということです。

初代の室長には、二十年以上の実績のあるベテランの看護師さんが就任しました。

室長のお話では、毎日平均百人ほどの患者さんが相談に来られるそうです。相談内容は、およそ60%が病院の治療に対する不満や苦情で、残りの40%は、病院以外の治療(薬やメスを使わない代替療法)を求める相談のため答えられないことが多く、とても苦労していたといっていました。

それで自己啓発として図書館での勉強が始まり、さらに様々なセミナーも積極的に受講していったところ、私の

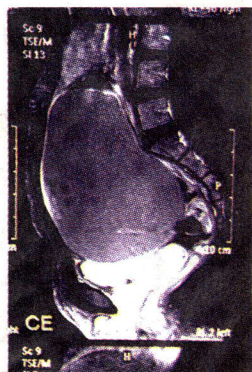
書いた「ガン・リウマチ・ヘルニア自然治療を科学する」という本に出会い、予防医学セミナーに参加され、自然治療の原理を学び、相談の際には大変役に立っているということでした。



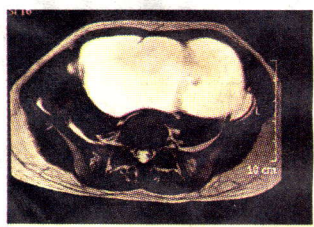
自然医学総合研究所所長

大沼 善誉

自然治療を科学する



断された30歳の女性。悪性R子宮筋腫と診断された。相談にものり、女性肥大型の子宮筋腫と診断された。代わりの治療法を探した。断層写真



腫瘍を水平に映したMRI。白い部分が腫瘍、内臓が圧迫されている。経年女性には数回の通院を繰り返して回復している

えられた細胞へと順次受け継がれることで、天命を全うできるような過程の事ですが、この過程において「分解酵素」や「組み立て酵素」

活性型の免疫細胞(白血球の中の単球)の仕事でもあるのです。

つまり、自然治療力とは「酵素を学ぶ生化学」という分野と「免疫を学ぶ免疫学」という両分野から成り立っています。それらの全てを学ぶ者が少ないことから理解できず不可思議な現象と思われる要素があった様です。

「患者様相談室」を早くから設けた病院の対応は、患者側に質問する権利や選択する権利を与えたもので地元での評判が高く経営も安定しているということです。

がんの盲点⑬

に遺伝子に書かれて誕生しています。従って、風邪を引いても治りやすく、骨折しても元の状態に戻りやすくなっているのです。この元に戻る能力を「自然治療力」といいます。

自然治療力とは、壊れた細胞や、寿命の尽きた細胞が除去された後に、新しい細胞が造られて、穴埋めされる

「病名」への「対症療法」を行うという学問が中心であり、原因に対してほとんど時間が使われていないところに問題が内包しているようです。

「病名」を一つつけ、つ

や「補酵素」などの働きが関与することで成り立っています。また、これらの反応を「修復反応」と呼びますが、この修復反応を「自然治療力」といいます。

反応を管理しているのが父親から50%、母親から50%受け継ぐことで「病理学」という学問を学びます。病理学とは、「病状」に対し

「病名」を一つつけ、つ

「病名」を一つつけ、つ

「病名」を一つつけ、つ

「病名」を一つつけ、つ

「病名」を一つつけ、つ

「病名」を一つつけ、つ

講演会のお知らせ

テーマ(1)
「癌を克服するためにV」
講師：酒匂猛 岐阜県中津川市立病院外科部長 医学博士

テーマ(2)
「自然治療の原理・腫瘍を分解する酵素の働き」
講師：大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士

日時：8月19日(日) 名古屋
会場：市東区ウィルあいち

時間：午前10時開演
費用：会員無料
非会員1000円

時間：午前10時開演
主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会
共催：自然医学総合研究所
申し込み：自然医学総合研究所
TEL 052・801・7063まで

(毎月、第1木曜日に掲載します)

問い合わせ
電話 052・801・7063
Eメール yoshinori@nrt.ne.jp
URL http://www.nrt.ne.jp